

脳神経疾患における
東洋医学的治療の可能性

2008 灸篇

未病治との観点から

福田美絵子

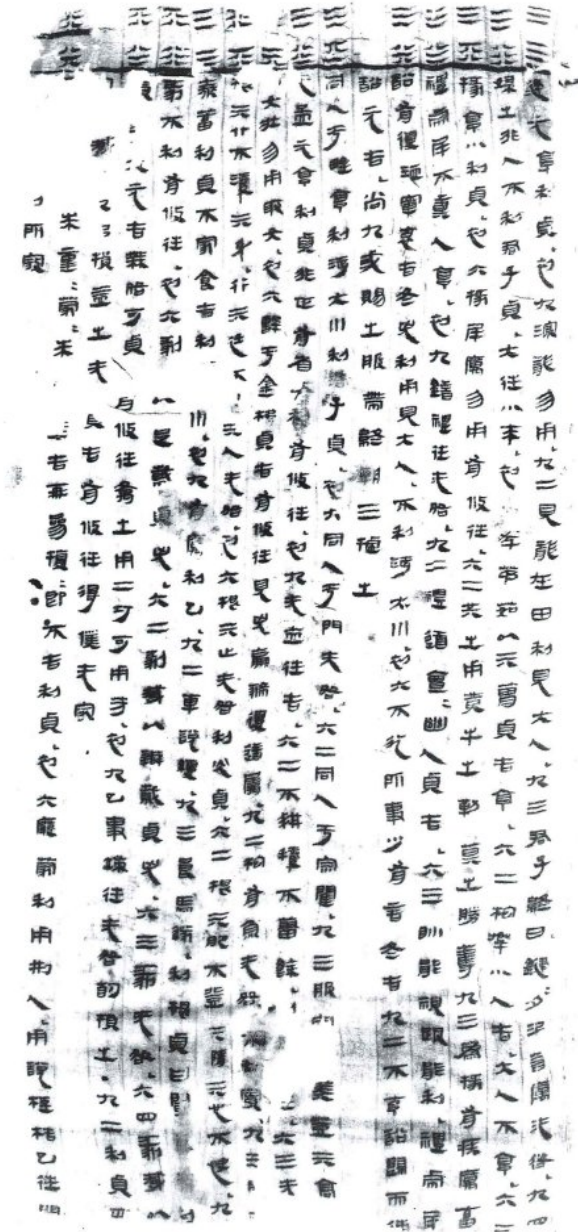
東洋医学的治療

- 鍼
- 灸
- 漢方藥

灸の歴史



1973年に中国湖南省の馬王三号堆漢墓から出土



馬王堆帛書 医経 足臂十一脈灸経
B.C 168(前漢の時代)

黄帝内经

現存する中国 古代医学 B.C 202



人体のしくみ
なぜ病気になるのか
病気の治し方
病気にかからないためには
どうしたらよいか

詳しい理論をもとに、
伝説上の君主(黄帝)と医学の
師匠との会話形式で書かれて
いる。

黄帝内经

上古天真論,四氣調神大論
(養生法に関する項)要約

- 1.心の安定を保持増進すること。
- 2.苦痛の除去又は軽減をはかること。
- 3.エネルギーの補給を円滑ならしめること。
- 4.生体各部のバランスを整えること。
- 5.宇宙自然の法則に順応すること。
- 6.生活環境を整備すること。

攻撃と守り

治未病

上古天真論

四氣調神大論

生氣通天論

金匱真言論

上古天真論篇第一

新校正云按全元起注本在第九卷王氏重次篇第移冠篇首今注逐篇必具全元起本之卷

內經一

十四

程保

時者萬物之終始也死生之本也逆之則災害生從

之則苛疾不起是謂得道謂得養生之道苛者重也道者聖人行之

愚者佩之聖人心合於道故勤而行之愚者性守於迷故佩服而已老子曰道者同於道德者同於德失者同於失同於道者道亦得之

同於德者德亦得之同於失者失亦得之愚者未同於道德則可謂失道者也

從陰陽則生逆之則死從

之則治逆之則亂反順為逆是謂內格格拒也謂內性格拒於天道也

故聖人不治已病治未病不治已亂治未亂此之謂

也知之至也夫病已成而後藥之亂已成而後治之譬猶渴

而穿井鬪而鑄錐不亦晚乎知不及時也備德虛邪事符握虎噬而後藥雖悔何為

生氣通天論篇第三新校正云按全元起注本在第四卷

黃帝曰夫自古通天者生之本本於陰陽天地之間

治未病

中医臨床第28巻4号38~43(2007)より

- 健康未病態：健康であり、病気でない状態。
- 潜病未病態：わずかな病因が隠れている状態。
- 前病未病態：発病の一手手前にある状態。
- 伝変未病態：発病後、さらに病状が進展する可能性のある状態。



松尾芭蕉 奥の細道



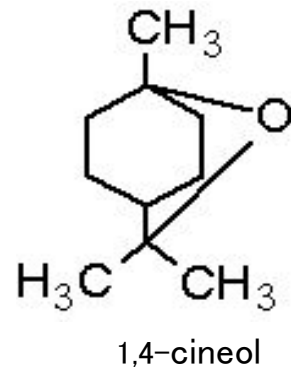
月日は百代のさらさらとて行くつら
 幸しも又旅人や舟の上あけ雁
 をうへへちかひごとくをむ
 ふらふらあきほく旅めり
 旅を極とて古人もあはれ
 死せりあやうし秋の幸より
 斤やぬぬあたまをこして漂泊
 のみあひやうとて海濱まよひ
 てまき干の秋はとて旅屋
 旅の古宿もむらさき
 幸せりあはれ改むる旅の
 白川の国とて舟とて舟り
 のゆめをりしとて舟りむらさ
 道徳神のまのこころ
 つらふきの結行くとく三里に
 考もゆりゆりね旅の月えい
 りねりしとて舟りむらさ
 杉尾別墅にて
 昔のたもむらさき旅離の家

灸を据える

- 子供を躰けたり強く叱る意味の言葉。指頭大の灸を四肢や背部、臀部などに据えて我慢をさせる。これにより「灸はやけどが残るほど熱いもの」としてイメージが定着することとなった。「お仕置き」、あるいは「制裁」という意味の隠喩としても用いられてきた。



艾の製作工程



石臼



唐箕

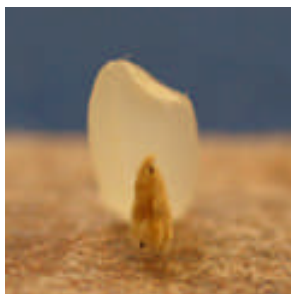


篩



実際の灸治療

半米粒大
0.25~0.5mg



施灸速度
1壮/3秒

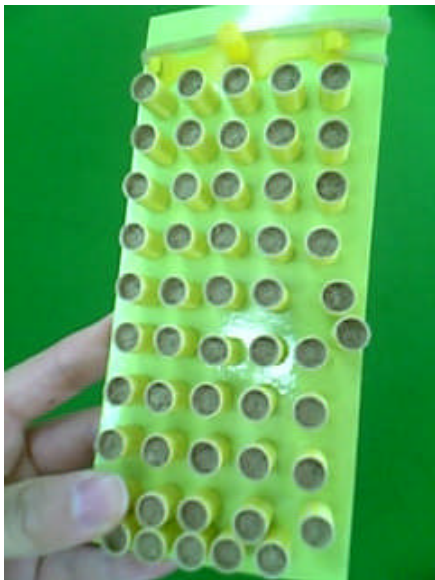


Gate Control Theory
を用いた灸熱緩和



身体あらゆる領域に施灸可能

市販の切り艾



施灸後

灸の種類

有痕灸

- 透熱灸
- 焼灼灸
- 打膿灸
- 直灸(点灸)

名家灸など

- 深谷灸法
- 四畔の灸
- 点状の灸

無痕灸

- 知熱灸
- 隔物灸
- 台座灸(温筒灸、円筒灸)
- 棒灸
- 灸頭鍼
- 箱灸
- 綿・ガーゼ灸(綿花灸)

壯 壯

ZDIC.NET

醫用艾一灼、謂之一壯者、以壯人為法

夢溪筆談 沈括(1030~1094)

灸の副作用



- 一過性血圧上昇
- 灸痕の化膿
- 灸あたり

Cybernetics : Norbert Wiener 1948

意味 : 舵取り Cyber(電脳)という言葉の語源

feedback : 情報によって自己を調節し、環境に順応させる
例) 学習と記憶

feedbackのない組織は崩壊へと向かう。

→ 人体は閉回路であり、自己の存在は
feedback機構によって維持されている。

鍼灸刺激 と feedback

鍼灸の刺激は侵害刺激としては微細なものであるが、全身的効果を現す。これは、鍼灸刺激が病変による、また病変をきたす原因となるfeedbackの過不足を矯正するからである。（間中説）

例)	生理的 feedback	正常なfeedbackの障害	鍼灸によるfeedbackの賦活
腐敗したものを食べる	嘔吐、下痢 内容物の排泄	平滑筋痙攣による 過度の腹痛内容物 が排泄されない	一時的な嘔吐や下痢内 容物の排泄

血圧

高血圧の人に鍼灸→血圧が下降 正常範囲内へ

低血圧の人に鍼灸→血圧が上昇 正常範囲内へ

過敏性腸症候群

腸管の異常な活動亢進(下痢)や、活動低下(便秘)を正常範囲に整える

灸の治効機序

フレア Flare :

腫れの周辺数cmの範囲の
血管拡張による紅潮

CGRP:カルシトニン遺伝子関連ペプチド

感覚神経の軸索反射



軸索反射の模式図(問田・栗山)より改変

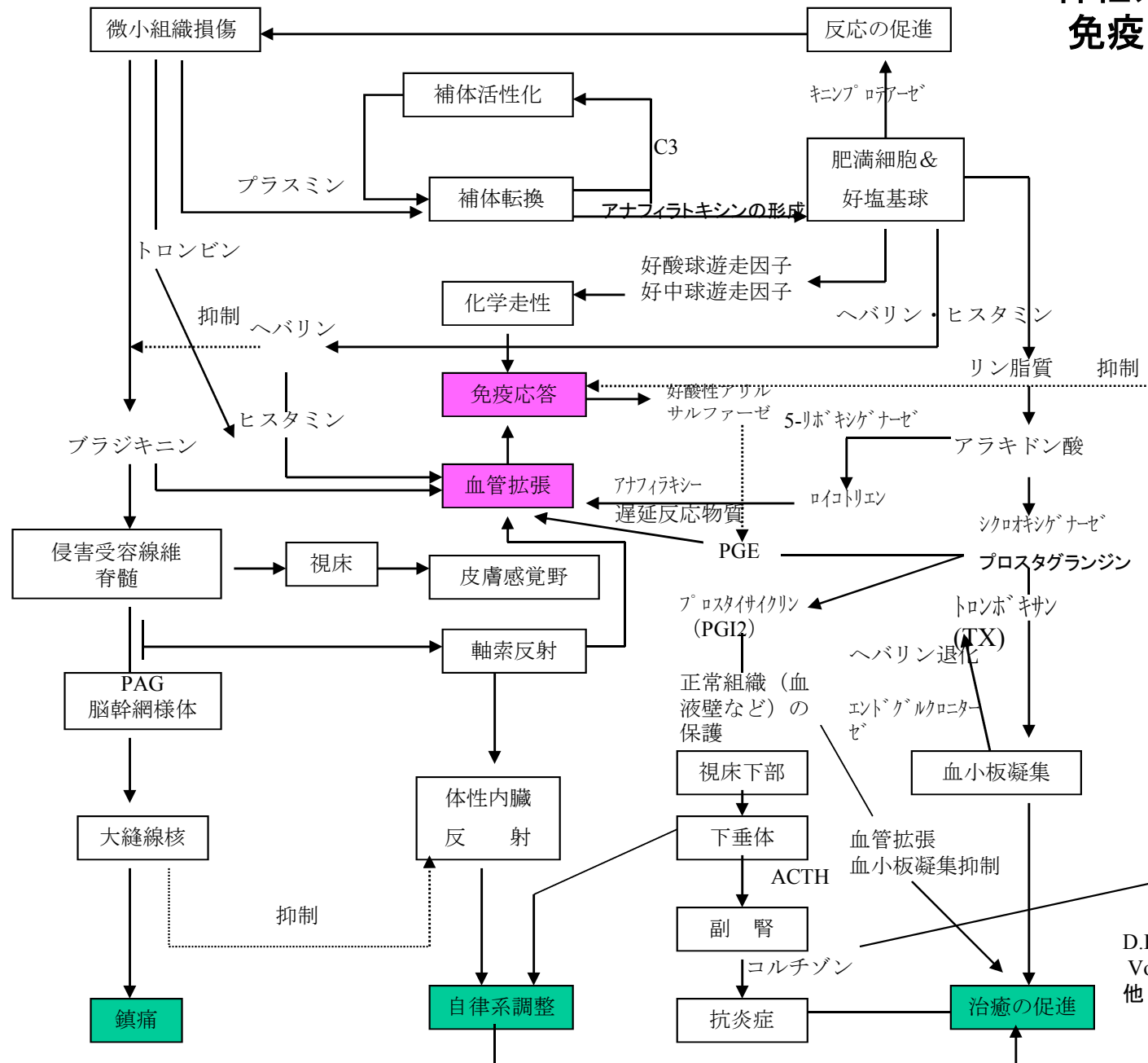


灸治療の効果

鎮痛作用	鍼と同様の機序
血流増加作用	直接的な温熱作用と軸索反射による皮膚血管作用 ケミカルメディエーターの産生による炎症促進作用
生体防御作用	好中球・マクロファージの貪食活性亢進→感染症にかかりづらくなる。 血液凝固能増加(トロンボキサン)→血液凝固時間短縮 (→貪食能を高め、治癒を促進)
熱ショック蛋白の産生	細胞修復能が高まる
抗酸化作用	血清SODの活性化 抗炎症作用 加齢による運動機能の低下を抑制する作用(マウス)
自律神経への作用	転調作用、月経周期の調整など

各参考文献は後々のスライドで提示

神経系、内分泌系 免疫系への影響



D.E.Kendall. Am.J of Acupuncture.
Vol.17, No.4 p355(1989)より改変
他 参考文献は次スライドにて表示

参考文献

- ・ 施灸の周辺部表層と深部組織における血行動態への影響 矢野 忠 全日本鍼灸学会雑誌55巻4号 601～613. (2005)
- ・ 施灸による抗炎症作用の基礎的研究 佐上博之 関西鍼灸大学紀要 vol.1 41～7. (2004)
- ・ Ito Y et al. Effect of prewarming the forearm on the measurement of regional cerebral blood flow with one-point venous sampling by autoradiography method. Jpn J Appl Physiol 34:117-20. (2004)
- ・ Choi GS, et al. Effect of moxibustion to zusanli (ST36) on alteration of natural killer cell activity in rats, Am J Chin Med. ;32(2):303-12. (2004)
- ・ Han JB, et al. The role of the sympathetic nervous system in moxibustion-induced immunomodulation in rats. J Neuroimmunol. Jul;140(1-2):159-62. (2003)
- ・ Chen Y, et al. Effects of "moxibustion serum" on proliferation and phenotypes of tumor infiltrating lymphocytes. J Tradit Chin Med. Sep;23(3):225-9. (2003)
- ・ 灸研究の現在 戸田静男 全日本鍼灸学会雑誌53巻5号 601～613. (2003)
- ・ Yamashita H, et al. Changes in peripheral lymphocytes subpopulations after moxibustion. American Journal of Acupuncture, 29(2):227-35. (2001)
- ・ 免疫の仕組みと神経系 松本美富士 全日本鍼灸学会雑誌50巻1号441～43. (2000)

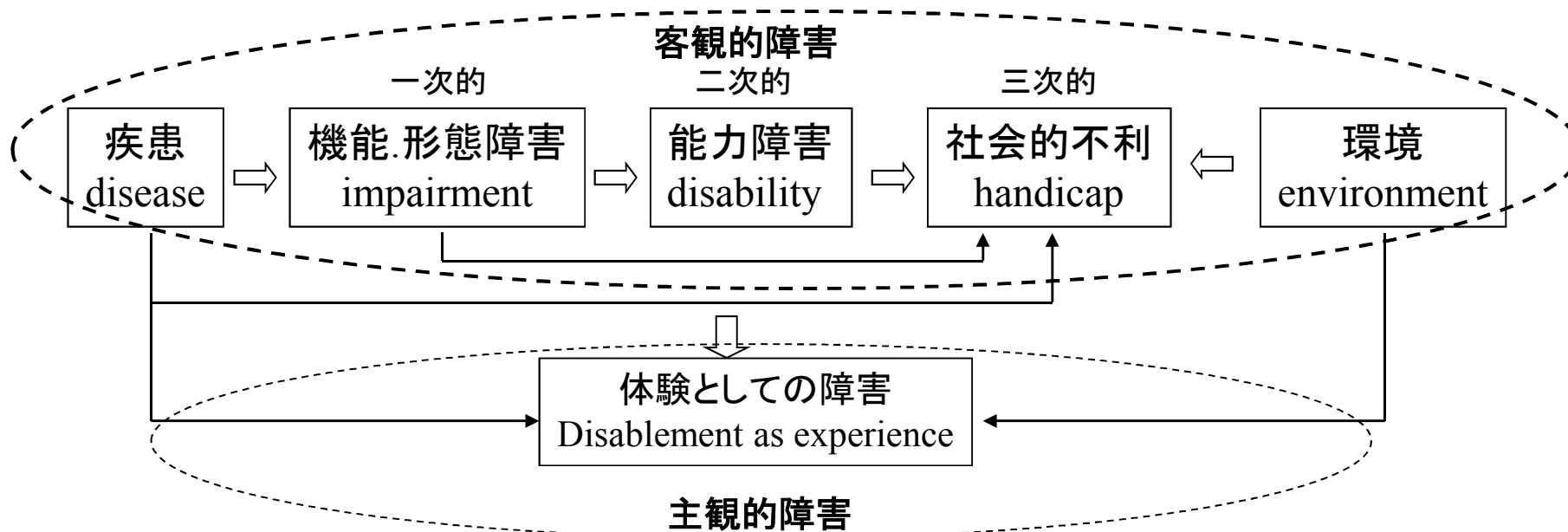
脳外科への灸の臨床応用

(北京中医薬大学での施行例2007年)

- ・ 脳卒中前駆症状に対するアプローチ
- ・ 脳卒中再発の予防
- ・ 感冒予防
- ・ 手術時の悪心予防
- ・ 点滴による静脈炎併発予防
- ・ 化学療法による胃腸障害予防

脳外科への灸の応用

- 自分を自分で治す意欲向上（患者教育）
- 心因性疼痛への対処
- リハビリテーションとの関連



まとめ

灸についての

- 歴史
- 未病治との関連
- 灸の種類と施術方法
- 作用機序及び効能
- 脳神経疾患への臨床応用の可能性

について概説した。